

5日(金)、明け方、東南東の低い空で木星と水星が並んで輝く

明け方午前5時30分ころ、木星が東から少し南寄りの東南東の空に昇ってきます。そして、午前6時前になると高さも少し高くなり見やすくなります。そんなころ、木星のすぐ上側に水星が並んで輝きます。木星が一番明るく、水星は少し暗めですが、1等星より明るい0等星ですので、天気の良いればすぐに分るでしょう。

見やすい時間は午前5時40分ころから、午前6時までの20分ほどのわずかな時間です。早起きをして、ぜひご覧ください。

6日(土)、西の空で、火星がすばると並んで輝く

20時ころ、西の高い空にオレンジ色の星が、二つ並んで輝いています。このうち、右下に見える星が火星、左上の星がおうし座のアルデバランになります。同じくらいの明るさで、色も同じように見えるので、間違えないでください。

さて、このうち火星を注意深く見つけると、少し右側に星の集まりが見えてきます。これがすばるです。普通の視力の方ですと、5つ程度の星が見えてくると思います。火星がすばると接近するのは、前後10日間程度です。火星とすばるの並び方が変化しますので、右の図を参考にして、10日程度観察してみてください。

火星はその後、おうし座のアルデバランに接近します。明るさ、色もほとんど同じなので、見分けがつきにくくなるでしょう。火星とアルデバランの最接近は20日すぎとなります。



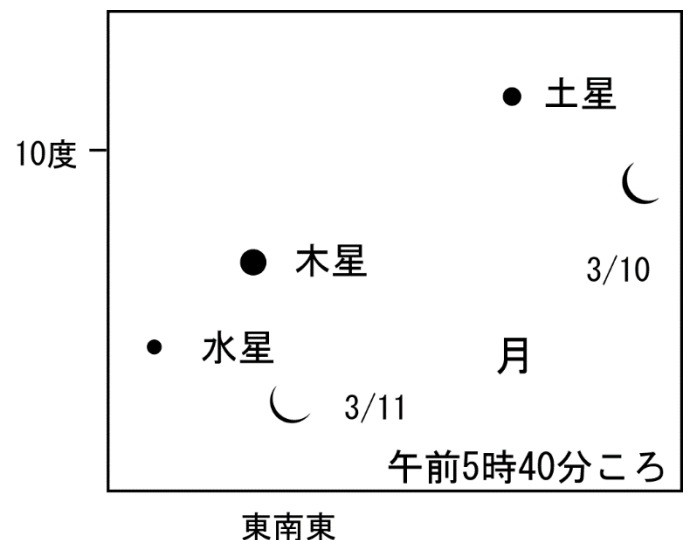
10日(水)、明け方、東南東の低い空で、月と惑星が並んで輝く

10日(水)の明け方、東南東に月と土星が並んで昇ってきます。そして、午前5時30分ころには木星、水星が追いかけるように昇ってきます。ただ、高さが低いので、山や建物があると見えなくなります。見晴らしのいいところをご覧ください。

右の図は、午前5時40分ころの、月と惑星の位置を描いたものです。この中で、木星が一番明るく目立ちます。水星と土星は、明るさはほぼ同じです。ただし、水星は高さが低いので、見つけにくいかもしれません。

なお、11日(木)の明け方は、月の高さが低くなりますが、快晴に恵まると、水星の下側に見えるでしょう。

見やすい時間は、午前5時40分ころから午前6時ころになりますが、6時ころには朝焼けが明るくなり、水星が見つけにくくなるでしょう。できれば、双眼鏡を使って探してください。



19日(金)、西の空で、月と火星が並んで輝く

空が暗くなる20時ころ、西の空で月と火星が並んで輝きます。火星の場所は、月の上側です。火星はオレンジ色の明るい星です。ただし、火星の左上に同じような色をしたおうし座のアルデバランがありますので、気を付けてください。なお、翌日の20日(土)は、火星の上側に月が移動しますが、比較的近い状態が続きます。

北極星を見つけよう

北極星は、ほぼ真北に見え、ほとんど動くことがなく、北の方位を教えてくれる星です。しかし、明るさは2等星で、特別明るい星ではなく、時々わからなくなる場合があります。

こんな時は、北斗七星の星の並びから、見つけることができます。北極星の場所は、右のように、北斗七星の端の二つの星を結んで、その間隔を5倍延ばした所となります。

北の空の星は、北極星をほぼ中心に、時計の針と反対方向に動いています。このように北極星は、北の方位を教えてくれるだけでなく、星の動きもお教えてくれますので、もし北斗七星が見つかったら、北極星を捜してみてください。なお、右の図の方法で、カシオペア座からも北極星を見つけることができます。ただ春の時期は、カシオペア座の高度が低く、見つけるのは難しいでしょう。

